

3課題を抱える青少年を支援する体験活動事業  
 A課題を抱える青少年を支援する体験活動事業



令和7年度 国立諫早青少年自然の家 教育事業  
 生活・自立支援キャンプ(ひとり親家庭の子ども支援事業)  
 「わくわくチャレンジキャンプ」

- 〔主 催〕 国立諫早青少年自然の家  
 〔期 日〕 令和7年12月20日(土)～12月21日(日) 1泊2日  
 〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家  
 〔参加者〕 島原市・南島原市・雲仙市・諫早市・長崎市・西彼杵郡・大村市在住のひとり親家庭の  
 小学2年生～高校1年生(男子7名、女子4名)  
 〔担当職員〕 高山 雄也、吉田 流風  
 〔協 力〕 長崎県母子寡婦福祉連合会、ひとり親家庭福祉会ながさき、大村市母子寡婦福祉連合会  
 島原市母子寡婦福祉会、島原市役所福祉保健部こども課こども家庭班

### 1) 事業の趣旨

ひとり親家庭の子どもたちが、共同宿泊生活体験を通して、「早寝早起き朝ごはん」や「調理」といった基本的な生活習慣の定着につながるきっかけを提供します。また、諫早自然の家で感じることができる自然の美しさを味わい、仲間と協力し、助け合いながら活動することで、信頼や協力する心を育みます。

### 2) SDGs で目指す姿

 <p>2 飢餓をゼロに</p>	 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>目標2 飢餓をゼロに          野外炊事やバランスの良い食事を通して、安全な調理の仕方を学び、楽しい会食の雰囲気を楽しみます。</p> <p>目標4 質の高い教育をみんなに          自然の中での体験活動を通して、自然の大きな仕組みや生命の大切さを感じ取ります。</p>
---	--	--

### 3) 目標

- ①基本的な生活習慣を身に着ける
- ②仲間と協力する
- ③自分のことは自分でする

#### 4) プログラム

1日目(12月20日)	2日目(12月21日)
10:00 諫早駅 送迎	6:30 起床
10:30 受付	7:15 朝のつどい
11:00 開会式、オリエンテーション 【写真1】	7:30 朝食(レストラン)
12:00 昼食(レストラン)	9:15 部屋点検
13:00 仲良くなるゲーム 【写真2】	10:00 ウォークラリー 【写真8】
15:30 野外炊事(パン・シチュー、夕食含む) 【写真3】	12:00 昼食(弁当)
19:00 ナイトハイク 【写真4】	13:00 クラフト活動 【写真9】
19:30 たき火 【写真5】	15:00 ふりかえり、閉会式 【写真10】
20:00 入浴、1日のふりかえり 【写真6】	15:30 送迎バス出発
21:15 読み聞かせ 【写真7】	16:00 諫早駅 解散
21:30 就寝	

#### 5) 事業展開

【写真1】 開会式、オリエンテーション



本事業における3つの目標と2日間の流れを確認しました。

【写真2】 仲良くなるゲーム



様々な協力するゲームを通し、2日間一緒に活動する仲間の名前を覚えたり、会話ができるようになりました。

【写真3】 野外炊事(パン・シチュー)



野外炊事では、パンとシチューを作りました。普段は体験しない火起こしや、たき火での調理を行いました。全員で協力し、美味しい夕食を作ることができました。

【写真4】 ナイトハイク



夜は自然の家周辺の森を散歩しました。同じ場所でも昼とは違う景色や自然の音を聞き、参加者は盛り上がっている様子でした。

【写真5】たき火



1日一緒に活動した仲間と、たき火を囲みながら会話をしました。普段の生活や学校でどう過ごしているかなど、班に捉われずに積極的に交流している姿が印象的でした。

【写真6】ふりかえり



1日で頑張ったこと、楽しかったこと、嬉しかったことをしおりに記入し、班ごとに発表をしました。他の人の話を聞きながら、翌日自分はどんなことを頑張りたいかを考えるきっかけになりました。

【写真7】読み聞かせ



早寝、早起き、朝ごはんの意識付けのため、関連する絵本の読み聞かせを行いました。参加者全員がしっかりと聞いている姿が印象的で、その後は全員が早く寝て、翌日の活動に備えることができました。

【写真8】ウォークラリー



自然の家のウォークラリーコースを班ごとに回り、その後の工作の材料を集めました。途中にはロープがある急坂がありましたが、班内で声掛けをしながら、頑張って歩いている様子が見られました。

【写真9】クラフト活動



ウォークラリーで拾った枝などを使い、参加者それぞれの名札を作りました。他の参加者と会話をしてアイデアをもらいながら、オリジナルの作品を作りました。

【写真10】ふりかえり、閉会式



キャンプの最後に、2日間の出来事を振り返り、印象に残ったことを全員で開き合いました。あっという間に2日間が過ぎたが、とても楽しかったという声が多くありました。

## 6) 評価

### ① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
91%	9%	0%	0%

### ② 参加者の声

- ・たくさん友達ができた。
- ・いつもはゲームばかりやっているけど、たまにはゲームをせず、自然の中で鬼ごっこやみんなでご飯を作って食べたり、山を登ったりするのもいいなと思った。
- ・協力、努力したり、他の人と一緒に頑張ると良いことがあると気付けた。

## 7) 成果と課題

### ① 成果

- ・県内の各母子会と連携を取り、広報活動を行ったことで、参加希望者の取りまとめを円滑に行うことができ、準備に時間を使うことができました。
- ・当初の申し込み締め切り日時点では参加希望者は4名と非常に少なかったものの、締切を延長したり、2日目の日帰り参加を可としたことで、12名まで応募を増やすことができました。
- ・各活動の時間をゆとりを持って設定したことで、参加者に対し必要以上に慌てさせることが無かった他、ナイトハイク等、予定には無かった活動を入れたことで満足度を上げることができました。
- ・参加者数に対して、ボランティア含めたスタッフを多く配置したことで、活動中の安全管理体制を万全なものにすることができました。

### ② 課題

- ・想定よりも応募者が少なく、追加募集を行いました。活動内容やチラシをより魅力的なものにしたり、協力をお願いする機関を増やすことで、応募者をより増やすことができるのではないかと考えます。
- ・スタッフの数が多く、安全管理体制には万全を期することができたものの、かえって参加者にはスタッフが多いことでの「見られている」というプレッシャーを与えてしまい、本来の姿が見られなかった可能性があります。応募人数を見て、班に2人までなど、適切な人数のスタッフ配置が必要だったように思えます。